島留学生の、もうひとつの 「居場所」 になる。





ミ ッ シ ョ ン 名： 島外からの地域みらい留学生の生活サポートと定着支援

着　任　地　域：佐渡市移住交流推進課

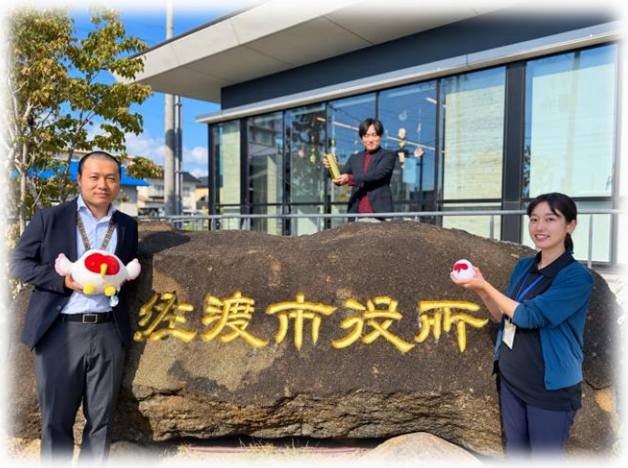


着任地域紹介（団体紹介）

佐渡島は日本最大級の離島で、島内には５つの高校があります。少子高齢化の影響により島内の生徒数が減少する中、佐渡市では島外から高校生を受け入れる「地域みらい留学」の取り組みを進めています。なかでも羽茂高校では令和５年度から受入れを開始しており、令和８年３月に第１期生が卒業を迎えました。

島外からやってくる島留学生は、広い空、海、田園風景に囲まれた環境の中で、地域の人との交流や島ならではの学校生活を経験します。

佐渡市では、羽茂高校と連携しながら、島留学生が「佐渡に来てよかった」と思える３年間を過ごせるよう、生活面から支える仕組みづくりを進めています。





（世話人）

佐渡市移住交流推進課職員が３年間お世話します。

〇解決したい課題、事業ミッション

【課題】

親元を離れて佐渡で暮らす高校生が、学校生活だけでなく、日々の生活そのものに安心して馴染んでいけるようなサポート体制が必要不可欠です。

体調を崩したとき。学校で嫌なことがあったとき。友達との関係に悩んだとき。
進路について迷ったとき。何となく気持ちが落ち込んでいるとき。

親元を離れているからこそ、「ちょっと聞いてほしい」と思ったときに身近に頼れる大人がいることは大きな支えになります。また、食事や生活リズム、季節の変化、地域との付き合いなど、生徒自身では気づきにくい日常の困りごとに寄り添うことも必要です。
こうした一つひとつに丁寧に寄り添いながら、生徒本人の自立を支えていく「生活ケア」の担い手が必要となっています。

【ミッション】

「羽茂高校の島留学生の暮らしを支える」

・日常的な声かけやコミュニケーションを通じた生徒の見守り
・食事や生活リズムなど、日々の暮らしに関するサポート
・体調不良や生活上の困りごとがあった際の対応、相談
・生徒と学校、保護者、地域との橋渡し
・生徒が佐渡で「自分の居場所」を見つけられるような地域とのつながりづくり

〇3 年後の目指す姿（当該地域・協力隊員）

協力隊員：生徒たちのサポート体制を確立するとともに、これまで培った生徒や地域とのつながりを生かして活動を継続することも期待します。

当該地域：協力隊員と連携して生徒のサポート体制を構築し、協力隊員を卒業した後も本人の希望に応じて活躍できる体制を一緒に考え、作り上げていきます。

〇協力隊に求めるスキル（人物像）

・高校生と大人として適切な距離感を保ちながら、信頼関係を築ける人
・料理、掃除、家事など、日々の暮らしを支えることができる人
・子どもや若者の成長を、すぐに答えを出すのではなく、じっくり見守れる人
・学校、保護者、地域の方など、さまざまな立場の人と丁寧にコミュニケーションを取れる人